

人とロボットを美しく守る
最長26mの巨大安全柵

SUSお客さま探訪シリーズ——オリオン機械株式会社さま

オリオン機械株式会社
〒382-8502
長野県須坂市大字幸高246
TEL:026-245-1230
http://www.orionkikai.co.jp/



家庭で学校で、毎日飲まれている健康飲料「牛乳」。牛の乳を搾る搾乳機の開発からスタートし、あらゆる分野に進出したものづくりの精神あふれるオリオン機械さまで、今年春に採用していただいた安全柵についてご紹介いたします。

長野県須坂市に大規模な工場を持つオリオン機械さま。酪農機器メーカーとして事業をスタートさせて以降、関連製品の開発製造を手掛け、現在では真空ポンプや空調機器のトップブランドとして海外にも幅広く進出している企業です。「酪農機器は、牛の乳を搾る機械、搾った乳を冷やす機械、水やエサを与える機械など、さまざまなシステムのもとで成り立っています。そこから付随するニーズを酪農以外の分野にも応用し、幅広く事業を展開しています」（取締役 生産カンパニーゼネラルマネージャー 春原忠夫さま）。

**見学者の多い工場は
私たちのショールーム
美観と安全性には常に
こだわっています**

以前は自社にある板金加工設備でスチールを溶接し、安全柵をつくっていたそうで

すが、ショールーム化に向けての美観等を考え、SUSの安全柵をお使いいただくことになりました。

「真空ポンプの切削加工ラインでワーク搬送にロボットを使用するにあたり、安全面から安全柵の設置が必要となりました。お願いしたレイアウト通りに、自由度の高いものを短納期で間にあわせていただき満足しています」（生産技術部 専用機グループ 専用機設計係 島方 大さま）。

オリオン機械さまでは3月～6月に計3回にわたり、安全柵を導入いただきました。その中で一番長いものが、4月に導入された全長26mのラインです。「私たちの会社には、年間を通して多くのお客さまが工場見学に訪れるため、工場内をショールーム化することをコンセプトの1つに掲げています。お客さまの多くは、製品がどのようにつくられているのかをご覧になることで、安心されるようです。しかし安全重視のため、ショールーム化を進めていく過程では苦勞する部分が多々ありました。今回SUSさんの安全柵を購入するにあたって当社としては、安全面を損なわずに「清潔感」「美観」を兼ね備えたフェンスー体型の安全柵にすべく、何度もSUSさんと仕様の打ち合わせを行い、「見せる安全柵」が完成しました」（生産技術部 専用機グループ長 町田満夫さま）。



取締役 生産カンパニー
ゼネラルマネージャー 春原忠夫さま

生産技術部 専用機グループ長
町田満夫さま

生産技術部 専用機グループ
専用機設計係 島方 大さま



工場内が明るくなったと社内でも評判とのこと。



全長26mにおよぶ安全柵。

**少しのたわみも許さず、
足りないものは自社で製作
ものづくりの精神を貫く社風**

今回の納品は俯瞰のレイアウト図で指示をいただき、標準品をベースに一部カスタマイズし、面単位で組み合わせを行いました。最長で26mという長い安全柵であったため、強度やたわみについてオリオン機械さまより貴重なお意見をいただきました。「扉部分の標準品が片開き、引き戸、いず

れも片側のみの仕様だったのですが、今回は両開きできる扉を希望していたため、当社でアレンジして付け直しました。扉の仕様については、もう少しバリエーションがあるとよいと思いました。また扉をつけると、どうしても強度的に弱くなってしまうため、強度が落ちない工夫も検討していただけると嬉しいです。今回のように長いスパンで利用すると、途中でどうしてもたわみが出てしまいます。直線的に沈まないような細工ができれば美しさもさらに増して、大変よ

いのではないかと思いました」（町田さま・島方さま）。

近年では環境に配慮した省エネ効果の高い精密空調機器などの制御装置も開発製造しているオリオン機械さま。ものづくりにかける情熱は『技能五輪』への優秀な人材輩出からも伺い知ることができます。妥協を許さない開発やものづくりに対する姿勢から得られた貴重なご意見を、SUSの製品づくりにも大いに生かしていきたいと感じた取材でした。



右は鉄製の安全柵。全体が覆われているため重く感じられる。



24時間無人で稼動するロボットを見守る。



技能五輪出場に向け、指導が行われている。